

慶應大学・文学部

慶應義塾大の英語出題内容と対策 【文学部】記述型 試験時間 120分 / 辞書持ち込み可 (電子辞書不可)

【出題内容】 1980年代から変化しない「受験英語のシーラカンス」

	和訳	内容 説明	要約 長め記述	語彙	英作文	空所 補充
2016	3	20字 字数指定なし1	100~120		1	2
2015	3	30字 指示内容選択1	120~150		1 整序1	2
2014	3	15字1	120~150	1+15	1	1
2013	3	50字 同意文選択1	100~120		1 整序1	3
2012	3	同意文選択1 30字×2	100~120		1 整序1	1
2011	4	下線部指示内容 字数指定なし1	100~120	1	1	1
2010	3	同意文選択 30字 文整序	100~120		1	2
2009	3	25字	100~120	7	1	1
2008	3	25字	100~120	7	1	

【慶應大学文学部合格へのカギ】

2012～2013 は大問 2 題となったが、伝統的に文学部の英語は大問 1 が基本。大問が 2 題になっても問題形式は何十年も前からほとんど変わっていない。変わったことと言えば、辞書持ち込みが認められるようになった点くらい（**電子辞書は不可**）。京大の入試英語とともにシーラカンスと言われている所以です。模擬試験の偏差値が低くても合格する学生がいるのは昔から（特に辞書持ち込み可になってから）。国語は入試科目にありませんが、アカデミックな文章に対応出来る現代文中心の国語力と記述力があれば、多少知識量が少なくても高得点も望めますし、社会の学力が安定していれば MARCH に落ちて慶應・文には受かるといったケースも出てくるでしょう（ベネッセ模試で 50～55 程度の英語でも合格している例あり）。慶應大学は 2 年生で他学部への転部試験も実施していますから、慶應への志望が強い人はとりあえず受験しておくのもよいでしょう。ただ、早稲田や上智と違って入学時に学部を選べる訳ではないので、入学後勉強しなければ希望の学部には入れないことも十分理解しておきましょう。

- 辞書の活用 ⇒ **英々辞書は必携！** 文脈に合う語義が英和辞書で見つからなければ英語そのものを考えるしかない！辞書の語義に頼りすぎでは駄目！

慶應大学文学部英語攻略の基本戦術は以下の通り。**和訳・英作は辞書使用可のため差がつきにくい。**

要約問題

配点が高いので大きなミスをするとそれだけで合格は難しくなる。100~120字で内容をまとめる訓練をしっかりと試験に臨みたい。

タイプとしては、

A) 解答の材料になる箇所が本文中の1~数箇所

B) 解答の材料になる箇所が本文全体に散っている

の2タイプあるが、ほとんどがタイプA。ただし、**タイプBの年度はかなりの読解力が必要とされる。**2016年度のように設問が曖昧だったため、合格者でも、ピント外れな解答をした者もいる。2014年度の法学部も同様だが、**英語で難問・奇問が出題されれば、現在の浪人が少ない慶應大受験者のほとんどは壊滅し社会の仕上がり勝負になるケースが多い点にも注意。**

和訳問題

分からない単語は辞書で調べられるが、逆に単語の知識では対応出来ないのが構造理解力と内容の理解力。下線部だけを見て和訳をつけるような学習では対

応出来ない。New Treasure 5よりはレベルは若干高いので、アカデミックな英語に慣れておくため The Universe of English (東大教養学部英語教材・市販あり) などを読んでおくとよい。**「構文が取れているのは当たり前」で「いかに内容を分かり易く相手に伝える日本語を書けるか？」を重視して取り組んで欲しい。**

□ 英作文

和文和訳を丁寧に行いミスのない英語をしっかりと書くこと。本文にヒントとなる箇所があるので、その構文を応用して書けばよい。

英文は長いですが、問題文も問題も法学部のような理不尽な難しさはない。文学部志望者ならある程度読書量も積んでいるはずですし、決してついていけないレベルではないでしょう(ただし年度によっては2013年度のようなハイレベルもある。2016年度の本文は驚くほど易しかった)。1000語を超える長文の出題も最近では慶應文以外でも見られるようになりまし、New Treasure で量には多少なりとも免疫はあるでしょうから、段落ごとに内容メモを作るなどの学習を普段から心掛けていけば怖くありません。また、「量が多いから速読が必要だ」というのは慶應文の入試問題には当てはまらないですね。SFCと違って、時間は十分にあります。むしろ、浅い理解ではなく、深く理解して何度も長文を読み直さなくてもよいような工夫の方がが必要です。